

2022 年度 事業報告

2022 年度はこれまでも FUNN が大切にしてきた職員の行動指針をもとに、2022 年定期総会に提出した活動計画と「明日の FUNN プロジェクト」の実施目標を意識しつつ、変動する状況を踏まえて事業を実施しました。

2022 年度事業報告目次

1	2022 年度事業別活動報告	
1-1	NGO の活動や運営に関する支援	P 2
1-2	国際協力に関する調査・提言	P 5
1-3	国際協力に関する情報・学習機会の提供	P 10
1-4	NGO 活動に関する人財育成	P 17
1-5	NGO 間及び各種団体との連携促進	P 18
2	組織	
2-1	組織運営・体制	P 20
2-2	会員	P 21

2022 年度重点項目：

- 1-1 加盟団体の交流機会を定期化する。こうした機会を通じ、団体のニーズを把握し、必要な研修等を実施していく。現在 FUNN に参加されていない NGO に FUNN を知ってもらう。
- 3-2 市民向け加盟団体紹介の機会を作る。一般向けイベントを検討する。世界を知る・NGO を知るための情報発信の仕方を検討する。
- 4-1 企業へのアプローチや連携の在り方について、検討し、可能なところから実施する。

◆FUNN 職員行動指針・・・

「人と世界をつなぐ」

「国際協力に関心があり、世界を知りたい・行動したい・サポートが欲しいと思っている人たち」に向けた活動。世界で起こる問題と私たちの暮らしとの関係性、私たちにできる関わり方や、必要な知識とスキルを伝えていく事で、国際協力への次の行動や選択肢を見つけることができる人を増やしていく。そうした人々が加盟団体につながることで、活動の活性化、発展を促す。

「NGO に関わる人と人をつなぐ」

「加盟団体の理事・職員・支援者・参加者」に向けた活動。同じ国際協力に関心を持つ人や、似た環境にある人同士や世代を超えた関係性をつくり、お互いの学びの場や居場所と感じられる場を提供する。加盟団体における個人同士のつながりを生み出すことで、組織間の協力を促進する。

「NGO と他セクターをつなぐ」

「NGO と、企業・教育機関・行政などの他セクター」に向けた活動。セクター間の協働への関心を引き、具体的な事例を紹介し、連携に向けてのアドバイスを行い、NGO と他セクターのつながりを生み出す。協働の可能性と力を広げていくことで、NGO の社会的基盤づくりを促進する。

1. 2022 年度事業別報告

1-1. NGO の活動や運営に関する支援

1-1-1. 2022 年度の方針

研修・団体間交流や広報協力を通じた活動における組織・能力強化支援と、助成金事業による資金的支援の充実を図り、団体活動の活性化を目指します。

1-1-2. 2022 年度の活動

① 正会員団体の資金調達、NGO 活動強化に資する情報の提供

■ 情報提供や人財紹介

○計画：各種ツールを用いて情報提供を行う。関係機関や団体からの情報を共有するほか、独自に情報収集し提供する。

○実施内容：FUNN 公式ホームページ、メールマガジン、機関紙（国際協力ニュース）等を通して、NGO 関連情報や助成金情報の提供、人財・ボランティア紹介などを行いました。外務省・JICA 等からの情報を関係団体と共有するほか、FUNN 独自にも情報収集を行ない、メールマガジン等による配信・案内を行いました。定期講読者に年間 26 回発行したメールマガジンでは、助成金情報のほか国際協力・NGO に関わるお知らせの提供を行いました。他に正会員団体へはメールマガジンとは別に助成プログラムや NGO スタッフ向け研修、政策提言に関する意見募集等団体運営に関する情報の共有を適宜実施しました。

○成果：上記の実施により、イベントや研修情報だけでなく NGO 向けの助成金、緊急支援に関する情報等を幅広く共有することができました。また、FUNN が受けた NGO 相談内でボランティアの参加に関する問い合わせの際に関係機関や正会員団体への紹介も行うことができました。

② 広報活動の支援

■ 情報の発信

○計画：各種ツールを用いて正会員団体を中心とした NGO 等の情報を市民に発信する。

○実施内容：正会員団体から依頼を受けた情報を FUNN ホームページやメールマガジン、機関紙（国際協力ニュース本文とチラシの挟み込み）を通じ市民や関連機関に発信しました。その他にも独自に収集した正会員の活動情報や関係機関、NGO の研修・イベント情報、また市民からの関心が高いミャンマーやアフガニスタン・ウクライナ等の人道支援やトルコ・シリア大地震に関する災害支援の情報も適宜発信を行いました。ホームページでの NGO 情報紹介は 23 件、メールマガジン（26 回発行、登録者数 453（2023 年 3 月末））では毎回 5 件以上の団体イベントや募金情報を掲載しております。

○成果：上記の実施により、正会員団体の活動や募金情報を中心に、他の NGO が行う関連活動情報を市民や関係者に届けることができました。

③ NGO の組織・能力強化の支援

■ 九州地域 NGO 活動助成金

○計画：宗教学法人真如苑と協働し、国際協力支援に加え多文化共生事業支援も含めた九州地域の NGO 助成プログラムを企画実施する。

○実施内容：今年度は募集説明会の際、前年度採択事業の紹介に加え、その1つを実施団体より事業報告して頂きました。8団体（内3団体が新規応募）から応募があり、他の助成を受けた1団体が辞退され、審査会を経て7団体が採択されました。このうち組織基盤強化2件、海外での支援事業2件、国内でのSDGs促進1件、多文化共生事業2件でした。

・募集期間：2022年7月16日（土）～8月27日（火）/募集説明会：7月27日（水）

・審査会：9月24日（土）

・採択事業実施期間：2022年10月1日（それ以前に開始も可）～2023年3月31日

・採択団体と事業

- （一社）モザンビークのいのちをつなぐ会「モザンビーク共和国カーボデルガド州 テロ避難民 施設整備」
- （任団）子どもに能楽を勧める会 「子どもと留学生の能楽発表会と他文化団体との交流会」
- （一社）福岡デンマーク協会 「デンマークセミナー及びデンマーク講座」（組織基盤部分へ助成）
- （特活）地球市民の会 「アニメーションを通じて考える「食」とSDGs」
- （特活）ISAPH(アイサップ) 「食用昆虫養殖の普及拡大を担う指導者育成事業」
- （任団）「ともに 学ぼう！」～日本の言葉・生活・文化～「組織基盤整備事業」
- （特活）トゥマンハティふくおか 「働く外国人のためのメンタルヘルスサポート事業」

○成果：2022年度は8団体から応募があり、うち半数は国内における国際交流支援を主な活動としている団体で助成金事業の広がりをつくることができました。またこれまで同様に海外での支援事業にもご活用いただきました。助成金を通じ、2団体の組織基盤強化と5つのプログラム実施に資することができました。今後の課題として、定期的に事業の進捗状況の確認や相談等継続的なサポートが挙げられます。次年度以降は更に助成団体へのサポートを手厚く行っていきたいと思います。



▲助成金審査会の様子

■ 防災救援支援の人権研修の事務局運営に関して

○計画：研修事務局の委託を受け、「スフィアハンドブック研修」事務局を共同運営する

○実施状況：最終段階で今回の協働は難しいとの判断に至り、5月の段階で今回は見送ることとなりました。

■ NGO 組織強化研修

○計画：2021年度検討を進めていたが実施できなかった組織強化研修を引き続き検討する。

○実施内容：NGO 組織強化研修のスキームの1つであるNGO等提案型プログラム（JICAが公募）は制度の見直しが行われ、2022年度はJICA地域拠点から提案を受け付けることとなりました。このスキームを活用して、多文化共生に関わる団体の組織基盤強化研修をJICA九州主催・FUNN企画・運営にて実施しました。

・2023年2月17日（金）・18日（土）大分県宇佐市（両日同じ内容）

2022年度NPO等を対象とする多文化共生推進ネットワーク形成のための研修事業

「～まちづくり・つながりづくりの多文化共生セミナー」

主催：JICA九州、企画・運営：FUNN、後援：宇佐市

メイン講師：高柳香代氏（多文化共生ネット、移住労働者と共に生きるネットワーク・九州）

事例紹介：古賀市、出入国在留管理庁、トゥマンハティふくおかの活動、宇佐市

○成果：両日で主に宇佐市や周辺地域社会の自治会・外国人受入企業・支援団体・国際交流団体等より32名の参加があり、参加者間の活発な交流が得られました。またこの企画を通じ自治体同士・団体等との経験交流なども行うことができ、今後参加者や関係者の多文化共生の推進につながることを期待されます。

■ 加盟団体交流会の定例化

○計画：加盟団体の交流会を定期化する。こうした機会を通じ、団体のニーズを把握し必要な研修等を実施できるようにしていく。

○実施内容：今年度は以下2回の交流会を実施しました。これに加え、5月21日の2022年度定期総会終了後の交流会、9月30日（金）の実施した西南学院大学NGO合同説明会も参加7団体の交流機会を設定することができました。

・7月29日（金）加盟団体懇親会。加盟団体3と外部団体1参加。オンライン開催。

・2023年3月11日（土）NGOカレッジ団体個別紹介会の後に参加者交流会実施。5団体参加。

○成果：各団体の活動実施状況、課題や取り組みの工夫の共有、コロナ禍で減っていた対面で繋がる機会を再度作ることができました。

■ FUNNとしての基金作り

○計画：緊急支援基金等FUNNとしての基金作りについて検討する。

○実施内容：今年度は他事業の実施スケジュールの関係上、協議する時間を設定することができず、実施できませんでした。

■ その他

□ウクライナ避難民のための0初級日本語コース「にほんごスタート90Hr」の協働運営

○計画：当初計画外

○実施内容：日本財団の資金を受け、4団体（3つの日本語教室とFUNN）が協働してウクライナ避難民のための0初級日本語コースを福岡市近郊在住の方を対象に8月～11月実施、その後各日本語教室における受入支援を継続しました。この準備・運営の一部をFUNNも協働して行いました。

○成果：ウクライナ避難民の方々の日本語習得支援を行うことができ、各団体との協力関係も作ることができました。

1-2. 国際協力に関する調査・提言

1-2-1. 2022 年度の方針

NGO のネットワークとして、NGO や市民全体にかかわることに関して、調査・提言活動に取り組みます。また今年度は特に九州地域の NGO 情報について見直し、整理することに取り組みます。

1-2-2. 2022 年度の活動

国際問題の調査・研究および国際機関・政府等への政策提言活動

■ 2022 年度 NGO・外務省定期協議会 ODA 政策協議会

○計画：ODA 政策協議会に参加し、情報提供を行う。

○実施内容：ODA 政策協議会に参加し、情報を理事会等で共有しました。

・7月20日 第1回 ODA 政策協議会 オンライン 協議内容：ODA 広報、民主主義共同体（CoD）運営理事国の件、ミャンマーODA に関して、開発協力大綱改定への市民関与を求める、安全保障政策との関連（フィリピンへの防災支援を自衛隊と軍でしているケース等）

・9月27日 臨時全体会 オンライン 開発協力大綱改定に関して

・11月1日 NGO・外務省定期協議会 全体会議 オンライン 定期協議会振り返りと重点協議事項、今年度の開発協力の取り組み、開発協力大綱改定について

・11月24日 第2回 ODA 政策協議会 オンライン

OECD-DAC 市民社会勧告、特に開発協力大綱改定と南の市民社会の支援、TICAD8 で表明された日本・アフリカの投資・開発協力及び TICAD と市民社会の関係、教育協力政策の重点分野(緊急期及び長期化する危機下の教育)とアカウントビリティ、開発協力大綱改定プロセスについて

○成果：FUNN から協議会へのインプットはありませんでしたが、協議の場に参加し内容を理事等関係者と共有できました。

■ 2022 年度 NGO・外務省定期協議会 連携推進委員会

○計画：連携推進委員会に参加し、他 NGO と連携し、NGO の立場から外務省と協議を行う。

○実施内容：河上理事が FUNN 選出委員として委員会・タスクフォース等に参加。FUNN 事務局や他理事も本委員会に参加しました。今年度は特に「開発協力大綱」の改定が9月に発表され、改定のプロセスがはじまり、これに関して下記のように NGO 側から多くの提言活動が行われています。

FUNN は関連して2月9日に関連勉強会を開催しました。また意見交換会等に理事らも出席、関連情報をメルマガや関係者へのメール、機関紙の特集記事等で発信しました。

・7月11日（月） 第1回連携推進委員会（オンライン）

報告：全国 NPO 法人調査の結果、NPO 法人テロ資金供与対策ガイダンス

協議：NGO 連携無償資金協力（N 連）今年度状況、NGO-ODA 連携「中期計画」今後の進め方

・9月27日（火） 臨時全体会 開発協力大綱改定に関して（ODA 政策協議会の項に記載）

・11月1日（火） NGO・外務省定期協議会 全体会議（ODA 政策協議会の項に記載）

・12月16日（金） 賛助会員（N 連を実施している NGO）に対する説明会

・12月22日（木） 第2回連携推進委員会（オンライン）

報告：N カゴ（若手中堅 NGO スタッフの集まり）の取り組み、重点課題への合同取り組み、N 連（一般管理費拡充、補正によるウクライナ関連案件募集）

協議：N 連の審査・改定・予算、開発協力大綱改定について

・2023年3月30日（木） 第3回連携推進委員会（オンライン）

報告 NGO-外務省連携の重点課題、グローバルファンドを通じた活動への NGO の関与強化、NGO 活動環境整備支援事業（N 環）、NGO 事業補助金の予算

協議 ALNAP 報告書および人道支援セクターにおける日本の役割、N 連報告と改定要請への回答

□開発協力大綱改定に関する動き（上記以外）

・9月9日 開発協力大綱改定のための有識者懇談会設置を発表。この NGO 側委員として稲葉雅紀氏選出。アンケート実施。9月16日～11月21日に4回の有識者懇談会があり、対応して4回の NGO 円卓会議が開催された。

・10月19日（水）NGO 要請書提出、60 団体賛同

NGO 側のポイント：「自由で開かれたインド太平洋」記述の削除を、非軍事原則の堅守、市民社会・ジェンダー主流化・包摂の記述を、経済安全保障でなく人間の安全保障、人権・民主化と開発協力、国益と「地球益」を同時にではなく、「地球益」優先優先

・12月9日（金）有識者懇談会・報告書を外務大臣に提出（NGO 代表欠席）

同日連携委・ODA 政策協 NGO 側の記者会見とプレスリリース

・12月16日（金）「ODA 大綱改定に関する政府懇談会報告書に対する市民社会の見解」オンライン

・1月「開発協力大綱改定に関する市民社会ネットワーク」を立ち上げ、

・4月5日の改定案以前に1月～4月5回の意見交換会開催（外務省主催：神戸・札幌・名古屋・東京・オンライン）。（改定案発表後に4回の意見交換会（東京・北九州・オンライン）開催とパブコメ募集）
【開発協力大綱（案）】

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/files/100487296.pdf>

・この件に関し NGO 主催の勉強会も随時開催されている。

・関連して FUNN は、2月9日（木）勉強会「変わる開発協力大綱～その行方は？」を開催（後述）

□他の NGO-外務省定期協議会の動き

・NGO 研究会報告書『日本の国際協力 NGO の資金調達リデザイン化と財務内容の強化』刊行
<http://kansaingo.net/kncnews/jigyo/20230407.html>

○成果：上記の活動に連携して FUNN としても情報提供や勉強会開催を行い、意見交換会への参加・意見表明（2023 年度に入ってパブコメ投稿）などのアドボカシー活動につなげることができました。大綱はまだ改定の過程にありますが、当初よりは NGO 側の意見の反映も見られます。引き続き注視していきます。

■ 市民社会スペース NGO アクションネットワーク（NANCiS）

○計画：広く市民社会組織として、国際協力 NGO として、市民社会スペースを確保し国際協力 NGO が相互に協力する仕組みとして設立された市民社会スペースの構成団体として関る

○実施内容：藤井副代表が世話人として NANCiS の活動に関わりました。世話人会はほぼ毎月開催され、市民社会スペースに関する様々な課題について情報交換や取り組みが話し合われました。

・7月8日緊急声明「市民の政治的自由・権利を妨げる、あらゆる暴力・弾圧に反対する

・8月5日 16-18 時ハイブリッド 弾圧研究会「弾圧に抗し、日中の平和を守るため私たちは何をすべきか」
秘密保護法対策弁護団・NANCiS 共催、一般公開なし

・COP27 エジプト会議（2022 年 11 月）に関して「開かれた市民社会くして気候正義なし」署名賛同

・秘密保護法対策弁護団からの海上自衛隊 1 等海佐の刑事訴追を許さず秘密保護法廃止を訴える声明」（2023 年 1 月 14 日）への賛同

・2023 年 1 月 31 日 C7「開かれた社会」ワーキンググループ 国内キックオフイベント G7 市民社会コアリション 2023 主催、NANCiS 協力

・その他協議内容：秘密保護法、土地規制法、開発協力大綱関連等。

■ NGO 非戦ネット

計画：国際協力に関わる NGO や、グローバルな観点から市民活動に関わる市民社会組織による安保法制案や戦争政策に反対するための継続的で緩やかなネットワーク団体である NGO 非戦ネットへの参加を継続する。

実施内容：2002 年イラク戦争反対の NGO の声をあげた非戦ネットは 2014 年の安保法制制定に関連して再結成されされましたが、近年活動休止状態でした。昨今の日本の軍事化の動きを受け NGO/市民社会の声を届けるため再稼働し 2030 年まで活動を続けることになっています。FUNN としては 2022 年度は参加できませんでしたが、今後情報共有や情報発信の協力をしていきたいと思えます。

○NGO 非戦ネット開催イベント

- ・2023 年 2 月 17 日オンライン「武器で平和は作れない～安保 3 文書と NGO の役割～」

■ NGO-JICA 協議会

○計画：NGO と JICA の対等なパートナーシップに基づき、より効果的な国際協力の実現と国際協力への市民の理解と参加を促進するための意見交換の場である NGO-JICA 協議会に参加する。

○実施状況：NGO-JICA 協議会に参加、または参加できなかった回も情報収集をしました。

- ・4 月 5 日（火）NGO 正会員の集い～今後の運営や規約設定

- ・第 1 回 9 月 21 日（木）ハイブリッド

報告：JICA グローバルアジェンダの設定、外国人材受入・多文化共生社会構築の取り組み、開発協力大綱関連、NGO 等活動支援事業の見直し

協議：ODA の透明性と情報公開、市民参加達成状況

- ・2023 年 1 月 17 日 NGO 意見交換会：第 2 回 N-J 協議会に先立って開催

- ・第 2 回 3 月 14 日(火) ハイブリッド

報告：PARTNER 等、JICA 世界保健医療イニシアティブ実績と新グローバルヘルス戦略に沿った事業、NGO 等提案型プログラム見直し、これまで取り上げた内容の進捗、G7・C7 に関する取り組み

協議：障がい者権利条約の日本勧告と今後、外国人材受入等に資する取り組みの協議の場設置

○成果：協議会の情報を正会員団体や関係者に発信することができました。また FUNN からも質問を出していた NGO 等提案型プログラムは 2023 年度に公募を再開する旨報告があり、NGO 側からの提言等がいきたのではないかと考えます。

■ G7 市民社会コアリション 2023

計画：2023 年に日本で開催される G7 サミットに市民社会レベルでの提言活動に関する準備会合に 2022 年度も引き続き参加する。

実施内容：G7 は 2023 年 5 月 19 日～21 日広島で開催されることが決まり、G7 への政策提言は各国の市民が参加する C7 (Civil 7) とその中の 6 分野のワーキンググループが行っています。この動きと連動して日本における市民社会の声を届けるため G7 市民社会コアリション 2023 (2023 年 4 月 25 日現在 120 団体参加) が 2022 年 5 月に設立され、提言活動を中心に様々な活動が行われています。FUNN は市民社会コアリションに団体会員として参加、関係者や加盟団体に関連情報の提供を行っています。

- ・5 月 10 日 設立総会 オンライン
- ・1 月 24 日 C7 キックオフイベント (英語) オンライン
- ・1 月 31 日 C7「開かれた社会」WG 国内キックオフイベント(NANCis 協力) オンライン
- ・その他各ワーキンググループの活動等、コアリションの HP で見ることができます。

<https://g7-cso-coalition-japan-2023.mystrikingly.com/>

(2023 年度 4/13・14 東京 C7 サミット、4/16・17 広島 みんなの市民サミット 2023

その他さまざまな関連イベントが開催されています)

市民グループの意見をまとめた C7 政策提言書 (コミュニケ) が 4 月に岸田総理に手渡されています。

<https://g7-cso-coalition-japan-2023.mystrikingly.com/blog/c7communique-jpn>

成果：C7 と「開かれた社会」WG 関連の情報共有はしていますが、登録上の不備があり全体に関する情報共有が十分できなかった点が課題として残りました。

■ 九州地域 NGO についての情報収集・整理

計画：様々な機会を捉えて九州地域の国際協力にかかわる団体が地域でどのような問題を抱えているかを知り、提言につなげていくよう努る。

実施状況：加盟団体である ISAPH と協働で福岡県内の在留外国人支援の国際協力・交流団体の状況調査をファイザーとテルモの助成を受け、ISAPH からの委託の形で 2023 年 1 月より開始しました。3 月までに対象団体をリストアップし、個人を含め約 500 件を対象にアンケート依頼を行いました。この調査は引き続き 2023 年度中継続していきます。

- ・タイトル：在留外国人を支える CSO の活動実態と支援ニーズに係る調査
- ・目的：地域で外国人を支援する CSO (含む国際協力団体) の活動状況や支援ニーズを明らかにする。特に在留外国人の保健医療アクセスを支援することについて CSO がどうかかわっているかをテーマとする。
- ・対象：地域で「国際協力」「国際交流」など、外国人に関する活動を実施している個人・法人
例) NPO 法人、日本語教室、国際交流ボランティア、公益(財団/社団)法人など
- ・スケジュール：

2023 年 1～3 月：質問紙調査 (対象団体すべて)

2023 年度の予定：6～9 月：インタビュー調査 (いくつかの団体を選定) 12 月：報告書の発行

成果：調査対象団体の洗い出しの段階で、各地の国際交流協会や市町村担当窓口 (多文化共生関連) に訪問や問合せを行い、情報収集と共に関係づくりを行うことができました。2023 年度中は様々な団体に話を伺っていき、今後の FUNN の中間支援の役割を更に明らかにしていきたいと思えます。

■ SDGs 実施指針改定への提言

○当初計画外

○実施状況：

2023 年の改定に向け現在民間の意見集約プロセスが実施されています。

・7月27日第1回パートナーシップ会議、10月24日第2回パートナーシップ会議

・FUNN では関連して以下の勉強会を開催し、この中で上がった意見を集約して第2回パートナーシップ会議に提出しました。

＊10月8日 SDGs 実施指針改定に向けた勉強会 in 九州（1-3-2 ■その他の学習会に記載）

・3月17日に政府 SDGs 推進本部（本部長：岸田文雄内閣総理大臣）に SDGs 実施指針改定にむけた提言書が手渡され、内容が外務省のウェブサイトに公開されました。

【SDGs 推進円卓会議民間構成員による岸田総理大臣への提言書】

https://www.mofa.go.jp/mofaj/ic/gic/page1_001531.html

○成果：SDGs 実施指針改定のプロセスについて九州地域の市民団体等に知ってもらうことや、その声を届ける働き的一端を担うことができました。

1-3. 国際協力に関する情報・学習機会の提供

1-3-1. 2022 年度の方針

潜在層・関心層の掘り起こしや、層の中や外がつながるための場づくり・工夫に取り組み、国際協力の活性化を目指します。今年度は特に市民向け加盟団体紹介の機会作りに取り組みます。このための情報発信の仕方を検討していきます。

1-3-2. 2022 年度の活動

① 国際協力に関する情報の提供

■ 国際協力ニュース（6月、9月、12月、2023年3月発行）

○計画：国際協力、NGO、加盟団体、FUNN の活動の情報発信ツールとして、広く市民に読んでもらえるような紙面づくり・広報誌を目指します。発行は年に4回（600部）とします。

○実施：年4回発行し（但し2023年3月号は印刷先の都合で500部）、正会員団体、個人会員、地域 NGO/NPO、教育機関、行政等の施設に配布しました。また NGO 相談員案内チラシや正会員団体へ告知などの発行物をニュース発行時に同封することで、正会員団体や関係機関の情報発信に協力しました。編集ボランティアにも関わっていただき、内容の伝わりやすさ等を検討しました。また希望される会員や配布先には紙からデータ（PDF ファイル）での配信に切り替えました。過去の国際協力ニュースのアーカイブをホームページで公開することにも取り組みました。

- ・143号（6月発行）：巻頭：食品ロス問題、総会報告など
- ・144号（9月発行）：巻頭：ウクライナ侵攻を台湾から見る
- ・145号（12月発行）：巻頭：開発協力大綱改定に関して
- ・146号（3月発行）：巻頭：ジェンダー主流化って？ NGO カレッジ報告他

○成果：ニュースの発行、チラシ同封等によって、時々の国際協力に関わる話題を FUNN などの視点から届けたり、各団体の広報に協力したりすることができました。ボランティアの方のかかわりによって内容が伝わりやすくなることができ、ホームページのアーカイブ作成では FUNN のこれまでの歩みがよりわかりやすくなったと考えます。

■ メールマガジン「Fun! Fan! FUNN!」（隔週水曜配信）

○計画：加盟団体を中心とする NGO のイベントやボランティア情報などを掲載し、行動のきっかけとなるメールマガジンを目指します。発行は隔週木曜日とします。

○実施：計画通り隔週配信しました。発行日は水曜または木曜でした。

■ 公式ホームページとソーシャルネットワークサービス（定期発信）

○計画：FUNN 公式ホームページと Facebook、Twitter、Instagram などのツールを連動し、FUNN や加盟団体のイベント、活動情報を市民に提供します。

・公式ホームページ： NGO 相談員報告や加盟団体の活動・イベント情報等ホームページの定期更新の頻度を上げ、最新の情報提供に努めます。

・SNS： 2022 年度も引き続き SNS（Facebook、Twitter、Instagram）を活用して、NGO 相談員や FUNN のイベント、加盟団体からの情報を効果的な発信を行います。この他にも You Tube 等動画メディアを活用して、世界を知る・NGO を知るための情報発信の仕方を検討していきます。

○実施状況と成果： 2022 年度は事務局開所日は継続的な発信を心がけました。今年度は Twitter の方で、毎回入力を行うのではなく、事前に 1 週間分の投稿を作成して、予約投稿を行うことで発信回数の増加につながったほか、SNS 全体で協力団体や関係者の方にも投稿の拡散協力（シェア）を行っていただいた結果フォロワー数の獲得につながりました。2023 年度は、これまでの取り組み加えて、投稿から実際に問い合わせのほか、活動への参加につながるような工夫を行っていきます。

2022 年 04 月 01 日～2023 年 03 月 31 日の登録者数の推移

Facebook	940→ 1,003	フォロー数
Twitter	819→ 869	フォロー
Instagram	96→ 206	フォロー
FUNN ホームページ	17,838	UU(ユニークユーザ/年)

■ 市民向け加盟団体紹介

○計画： 正会員団体の活動を一般市民の方に知ってもらう機会を作るよう検討し、実施を目指します。

○実施： 2023 年 3 月 11 日（土）NGO カレッジ最終日を、団体活動紹介と個別相談会とし、一般市民の方に参加していただきました。

○成果： 20 名の方々にご参加いただき、5 つの団体の活動や参加の仕方を紹介することができました。



▲個別相談会の様子

② 国際協力に関する学習機会、参加の場作り

■ 倶楽部 FUNN

○計画：国際協力に対する理解を深め、国際協力に関心のある市民が出会い・交流を深めることを目的に、学びとコミュニケーションの得られる場を開催します。内容：多文化共生と国際協力 3 回ずつ、オンライン開催を基本に、寄付協力の呼びかけを計画します。

○実施：以下の内容を「リモート倶楽部 FUNN」として 6 回オンライン開催しました。多文化共生のテーマとしては調整がつかず 1 回でした。無料参加チケットのほかに、「ゲストスピーカーの活動応援チケット」と「FUNN 応援チケット」を通じ、寄付協力を呼びかけました。

開催日	タイトル	講師	参加者数
4月8日	「アートを通して日本へ」	メラニー・ヴェーバーさん (美術系職従事者)	16名
6月11日	「青年海外協力隊としてモザンビークでの経験を踏まえて、「今」を考える」	宇野 智貴さん (中学校教師・協力隊 OB)	11名
8月5日	「東アジアの日本観」	・高橋 孝治さん (大学院研究者)	13名
10月7日	「日本/中米・カリブでの 40 年に感謝！」	丸田 隆弘さん (九州海外協力協会)	17名
12月9日	「FIWC 九州・アジアワークキャンプ報告会」	FIWC 九州 スタッフ 4 名	11名
1月29日	「日本の森林資源でエチオピアの森林の再生に寄与できるか？」&「木材による文化交流！」	久田信一郎さん (日本・エチオピア友好協会)	13名

○成果：2022 年度もオンラインによる開催を全 6 回行い、計 81 名の方にご参加いただきました。2022 年度も様々なテーマで国際協力の実践者や多文化共生に関わるお話しを伺うことができました。応援チケットを通じ、スピーカーの活動と FUNN へのご支援もいただくことができました。



▲ 倶楽部 FUNN 告知バナー



▲ 参加者との集合写真

■ NGO 合同説明会【せいなんボランティアカフェ vol.2 国際協力 NGO フォーラム】

○計画：大学生に FUNN の正会員団体をはじめ、福岡・九州で活動する NGO の活動について理解してもらう場、また団体の活動やスタディーツアーやボランティア、インターンシップ等に参加するきっかけづくりとして西南学院大学ボランティアセンターとの協働で開催します。対面（一部オンライン）での開催を検討していきます。

○実施計画：全体説明、出展 NGO 団体のブースで活動紹介・体験企画への参加方法案内。国際協力に関する知識やキャリアステップに関する相談窓口も開設予定。

○実施内容：下記の通り実施しました。今年度は前半を JICA 福岡デスクと協力隊 OB による講演（西南担当）、後半を NGO 説明会（FUNN 担当）として行いました。

日程	企画名	会場	参加団体数	参加学生数
9月30日（金）	せいなんボランティア・カフェ vol.2 国際協力 NGO フォーラム	西南学院大学チャペル	7 団体	26 名

○成果：参加者に国際協力や、その関わり方をしてもらったきっかけを作ることができました。今年度の会場はブース形式のイベントとしては使いづらい面もあったため、会場設定に関しては今後の検討課題となります。



▲全体説明の様子



▲ブースの様子



▲説明会チラシ

■ 第 22 期 NGO カレッジ「わたしと世界の関わり方」

【第 22 期 NGO カレッジ】

わたしと世界の関わり方

○計画：一般市民を対象に国際協力の理解・参加促進を目的とした国際理解事業を企画、実施します。

○実施：福岡県国際交流センターの助成を受け、下記の全 3 回連続講座をハイブリッド形式で開催しました。

開催日時 開催場所	各回のタイトル	講師	参加者数
3月4日 もち文化センター・Zoom	「平和をつくる」を仕事にする～地雷や子ども兵問題に取り組んで～	鬼丸 昌也さん（認定 NPO 法人テラ・ルネッサンス創設者・理事）	22 名
3月5日 Zoom	アドボカシーとはじめ	①神田 浩史さん（NPO 法人泉京・垂井副代表） ②鈴木千花さん（持続可能な社会に向けたジャパンプラットフォーム（JYPS）事務局長）	12 名
3月11日 もち文化センター・Zoom	第一部 『国際協力の現場と私たちの関わり方』 第二部 『5 つの NGO 団体による活動紹介と個別相談会』	①林裕さん（福岡大学商学部貿易学科准教授） ②NPO 法人 ISAPH、日本国際ボランティアセンター、FIWC九州、NPO 法人バングラデシュと手をつなぐ会、認定 NPO 法人地球市民の会	20 名

○成果

テーマである「わたしと世界の関わり方について」は 1 年間の相談対応を実施していく中で、「NGO や海外支援等に参加したいけど、どのように関わっていいかわからない。」「自分に合う参加方法を知りたい」という相談が数多く寄せられたことを踏まえ、NGO 関係者の方をお呼びし、活動をはじめたきっかけや自身の活動内容についてお話しいただきました。3 回目の後半では正会員団体にも参加いただき、活動団体と参加者をつなぐ時間として個別相談会を開催しました。参加者の方々からは「もっと国際協力について、学びを深めるために積極的に海外に赴くことが必要不可欠だと思った。」や「相手のニーズに沿うために語学力を向上させることや、積極的に NGO ボランティアへ参加することによって、国際協力へ向けて自分ができる行動を考え、実行するべきだと思いました。どんな分野であれ有用であるとの意識を持ち、危機感を持って勉学に取り組み、知識を養うことで、学びの機会を逃さないように努めようとも思いました。」といったご感想をいただくことができました。



▲ 1 回目の様子



▲ 2 回目の様子



▲ 3 回目の様子

■ 外務省 NGO 相談員

○計画：外務省 NGO 活動環境整備支援事業「NGO 相談員」として、市民・企業・行政・教育機関等からの NGO や国際協力に関する相談業務を行います。

○実施：計画通り実施しました。外務省主催の相談員連絡会（オンライン、1回は沖縄で開催）、全国の相談員間での情報交換会に出席しています。

- ・年間相談件数：509 件（目標 450 件）
- ・SNS リーチ数：22540 件（目標 2 万件）

■ NGO 相談員「出張サービス」

○計画：市民などからの相談対応を通じた国際協力の理解促進を目的に、国際協力関連のイベントなどにおける相談対応や講演活動を積極的に実施します。対象は九州ブロックの 7 県です。

○実施：目標を上回る出張での相談員対応を行いました。

- ・出張サービス件数：8 件（目標 7 件）

日程	出張先	場所
2022 年 6 月 12 日	みやざき国際ナショナルフェスタ～ワールドテラス	宮崎県宮崎市
2022 年 8 月 27 日	いっしょフェス 2022	福岡県福岡市
2022 年 10 月 4 日	福岡市立壱岐中学校	福岡県福岡市
2022 年 11 月 5 日	おおいたワールドフェスタ	大分県大分市
2022 年 11 月 9 日	糸島市立前原南小学校	福岡県糸島市
2022 年 11 月 19 日	ドッドジェイピー福岡 機関—学生交流会	福岡県福岡市
2023 年 1 月 31 日～2 月 5 日	福岡国際関係団体連絡会パネル展	福岡県福岡市
2023 年 3 月 18 日～3 月 19 日	JICA 協力隊まつり	福岡県福岡市

○成果：

相談件数は目標を超える相談対応を実施することができました。相談者は「NGO 関係者」が一番多く、次いで学生の方からの問い合わせがありました。相談内容としては「NGO 関係者」からは団体運営に関する相談が多く、広報の協力も多く問い合わせがありました。一般の方からはボランティアの参加や寄付情報提供に関する相談が数多く寄せられ、特にウクライナ支援やトルコ・シリア地震に関する募金の問い合わせを多く頂いています。

出張サービスは当初の目標より 1 件多い 8 件でこちらも年間目標を達成することができました。2022 年度は各地で開催された国際イベントへ出展し、市民の方へ積極的に NGO の活動や ODA の理解促進となるような情報発信を心がけて行いました。一方で目標件数は達成できたものの九州ブロック全県での実施はできず、福岡県内近郊での実施に集中したほか、教育機関での出張授業等も多く実施することができませんでした。23 年度は各地の協力団体・機関と連携しながら九州ブロック全県での出張サービス実施、イベント出展以外の出張サービス実施を目標に取り込む予定です。



▲ 出張授業の様子



▲ ブース出展の様子



▲ NGO 相談の様子

■ イベント参加・出展

○計画：各種イベントに参加・出展を行います。九州各県の国際協力推進員や、国際交流協会、行政、各地の NGO や関係機関と連携することで各地のイベントに多く出展することを目指します。

○実施：NGO 相談員「出張サービス」にて実施しました。



▲イベント参加の様子（8/27 いっしょフェス）

■ 講師派遣

○計画：大学や小中高校での総合学習の授業や公民館、市民・他団体の取組・企画に FUNN 職員などを派遣、および派遣の調整を行います。

○実施：上記出張サービスでの実施以外に、以下の講師派遣を実施しました。

・九州国際大学 国際協力実践論への講師派遣

6月21日 NGO 福岡ネットワーク（加藤）／6月28日 ISAPH（山本氏、浜中氏、安藤氏）

7月5日 九州海外協力協会（丸田氏）／7月12日フレンズ国際ワークキャンプ九州（安武氏）

・2023年2月7日 福岡出入国在留管理局職員研修への講師派遣

トウマンハティふくおか（弥栄氏）、アジア女性センター（柿原氏）、NGO 福岡ネットワーク（松崎）

■ その他の学習会（FUNN 主催）

○実施内容：その時々状況に対応し、今年度は以下の勉強会を開催しました。（1-2-2 記載）

- ・ 10月8日（土）「SDGs 実施指針改定に向けた勉強会 in 九州」（持続可能な社会にむけたジャパンユースプラットフォーム（JYPS）共催）解説：JYPS 事務局長 鈴木千花氏（SDGs 官民の円卓会議メンバー） 参加 25 名
- ・ 2月9日（木）「変わる開発協力大綱～その行方は？」ココロセンター研修室（ハイブリッド） 資料代 500 円 参加者 24 名 講師：今井高樹氏（JVC 代表、改定に関する有識者懇談会 NGO 委員のアドバイザー）

2023
2月9日(木)
18:30~20:15
FUNN勉強会
変わる開発協力大綱
～その行方は？

日本のODA基本方針「開発協力大綱」の改定準備が進んでいます。NGO側から様々な意見が挙げられていますが、十分反映されているとは言えない状況です。非軍事原則は遵守されるのか、人間の安全保障が中心に据えられるのか、非営利社会との連携や開発教育は？等、提言に聞かせてくれた今井高樹さんを選んで一緒に考えませんか？

発題者：今井高樹氏（日本国際ボランティアセンター（JVC）代表、NGO・外務省協議会・大綱改定NGO委員アドバイザー）

会場：ココロセンター研修室（舞鶴2丁目あいれ3-8F 地下鉄赤坂駅徒歩6分）
資料代：500円 オンライン参加も可能。

申込み：下記フォームから（QRコード）2/8 17:00までに申し込みください。
<https://forms.gle/W5xjBWhdAem5A>

主催：（特活）NGO福岡ネットワーク
✉ funn@ngofukuoka.net ☎ <https://ngofukuoka.net/>
☎ 092-406-9870（電話は火～土 13:00～18:00）

▲2/9 開発協力大綱勉強会

1-4. NGO 活動に関する人財育成

1-4-1. 2022 年度の方針

FUNN や福岡の国際協力活動の発展に資する人財の確保・育成のための活動に取り組みます。

1-4-2. 2022 年度の活動

人財確保・育成の為の施策

■ ボランティア

計画：国際協力や NGO の活動に関心のある人を FUNN のボランティアとして受け入れ、また加盟団体の紹介などを行います。2022 年度は前年度から継続して参加して頂いてる大学生を受け入れる予定です。その他にも社会人の方にも参加可能なプログラムを適宜行ってまいります。

実施：2022 年度も適宜ボランティアの受け入れを行いました。4 名の学生に広報・学習会運営等、2 名の社会人に庶務・日本語支援教材作成・広報等へご協力いただきました。

■ インターンシップ

計画：FUNN の活動に携わるインターンを募集し、国際協力に関わる人財の育成に取り組みます。2022 年度も前年度同様 NPO 法人ドットジェイピーからの派遣された大学生インターンシップを夏季と春季にそれぞれ 2 名受け入れ予定です。また FUNN 独自で長期インターンシップ生の募集も行います。

実施：夏季 1 名、春季 2 名の学生インターンをドットジェイピーより受け入れました。2023 年 1 月～3 月には、有償インターン 1 名に調査を担当してもらいました。

成果：ボランティアやインターン受け入れを通じ、国際協力に関心を持つ若い世代の方に体験の場を提供することができました。また参加いただいた方々からも企画等に様々なインプットをいただくことができました。

■ スタッフ研修

○計画：「明日の FUNN」プロジェクト 6-1 スタッフの能力向上の機会確保（'22 重点項目外）

○実施内容：月 1 回程度、スタッフが、加盟団体開催イベント等への参加、組織運営に関する研修、多文化共生・国際協力に関するセミナーに参加しました。

○成果：加盟団体活動や多文化共生・国際協力への理解を事務局スタッフ自身が深めることができ、組織運営の自団体の課題を認識、今後の改善に役立て、また他団体への支援にもいかしていきます。



▲ 2022 年度参加インターンシップ生

1-5. NGO 間及び各種団体との連携促進

1-5-1. 2022 年度の方針

国際協力の理解促進、発展、社会的課題の解決を目指して、NGO あるいは NGO とは異なるセクターを繋ぐことによる相乗効果を目指します。今年度新規研修実施の予定があり、こうした事業を通じて他セクターとの連携を広げていきます。

1-5-2. 2022 年度の活動

①ネットワークの構築

○計画：全国や九州地域の国際協力・交流組織と情報交換、連携促進を図る。現在ある繋がりを強め、繋がりを担う人材の確保にも務める。2022 年度より2つの全国的ネットワークに新に参加予定。また近年あまり実施できていない企業へのアプローチや連携のあり方について検討し、可能なところから実施する。

○実施状況と成果：

- ・下記の取り組みを通じ、ネットワークの構築や連携促進に努めました。
- ・機会を見て関連団体を訪問し関係づくりや促進を行いました。
- ・事業の取り組みの中でも地域日本語教室、多文化共生に関わる自治体や地域・受け入れ企業等と新たに会うことができました。また 2023 年より行っている調査の準備段階で、福岡県内各地の国際協力・多文化共生窓口に連絡や訪問をし、調査への協力を得ており、今後調査外にもつなげていけるのではないかと考えています。
- ・企業へのアプローチは、NGO 相談等で問い合わせのあった企業との面談や応答を通じ、NGO を紹介したり今後の連携等を話し合ったりした。また広報支援を2か所から得ています。
- ・事務所を置いている福岡 NPO 共同事務所「びおとーぶ」には 2022 年度は 8 団体（一時 9 団体）参加。月 1 回運営委員会を持ち情報交換等行っています。びおとーぶは 25 周年を迎え、WEB 上に 25 年を振り返るアルバムと年表が作成していく予定です。

□JICA 九州と九州地域の NGO 等のラウンドテーブル開催（FUNN 呼びかけ・運営）

4 月 28 日（木）JICA・NGO スタッフ・九州各地の国際関係機関関係者等 23 名の参加

議題：JICA の NGO 支援プログラム説明、ウクライナ支援に関する各団体情報交換

□福岡国際関係団体連絡会（FUKU-NET）に原田副代表が運営委員として参加

・第 195 回～198 回連絡会が開催され、ウクライナ支援、多文化共生、入管の在留支援等について学びのときがもたれました。

・1 月 30 日～2 月 6 日 福岡市役所 1F にて FUKU-NET 加盟団体のパネル展が行われ FUNN も展示と NGO 相談として参加しました。

□全国ネットワーク NGO の集いの世話人として、以下を開催しました。

・11 月 26 日（土）全国ネットワーク NGO の集い オンライン

参加者：地域ネットワーク NGO7 団体 13 名 講演：沖縄 NGO センター玉城直美氏「沖縄の平和とネットワーク NGO の取り組み、課題から展望まで」

■ ネットワーク活動

(特活) 国際協力 NGO センター、(特活) 関西 NGO 協議会、(特活) 名古屋 NGO センター、全国ネットワーク NGO の集い、独立行政法人国際協力機構九州国際センター、JICA 国際協力推進員、(公財) 福岡よかトピア国際交流財団、福岡国際関係団体連絡会 (FUKU-NET)、北九州国際交流団体ネットワーク (キーネット)、(公財) 福岡県国際交流センター、福岡県 NPO・ボランティアセンター、福岡市 NPO・ボランティア交流センター「あすみん」、福岡市人権啓発センター「ココロセンター」、福岡 NPO 共同事務所「びおとーぷ」、志免町まちづくり支援室、北九州市市民活動サポートセンター、久留米市市民活動サポートセンター「みんくる」、鳥栖市民活動センター「クローバー」、佐賀市民活動プラザ、佐賀県国際交流協会、おおいた国際交流プラザ、長崎県国際交流協会、熊本市国際交流会館、宮崎県国際交流協会、鹿児島県国際交流協会、地域 ESD 推進拠点、G7 市民社会コアリション 2023、社会的責任向上のための NPO/NGO ネットワーク (NN ネット)、市民社会スペース NGO アクションネットワーク(NANCiS)、NGO 非戦ネット

2.組織

2-1. 組織運営・体制

役員

【理事】

二ノ坂 保喜／（特活）バングラデシュと手をつなぐ会 代表 [代表理事]
藤井 大輔／ 債務と貧困を考えるジュビリー九州 代表、九州国際大学現代ビジネス学部 准教授 [副代表]
原田 君子／（特活）NGO 福岡ネットワーク 前事務局長 [副代表]
安村 妙 / JVC九州ネットワーク
楠原 圭子／ アジア開発銀行福岡 NGO フォーラム 事務局
本田 正之／（特活）NGO 福岡ネットワーク 元事務局職員
弥栄 睦子／（特活）トゥマンハティふくおか 代表
河上 雅夫／ 賛助会員

【監事】河部 正／ 西日本国際財団 前事務局長

事務局

【事務局長】 安村 妙

【事務局スタッフ】松崎 浩平、小原 正道（10月上旬まで）、加藤 綾乃（1月中旬まで）、多原 真美（2023年1月～）、塩塚 洋平（2022年12月～）、原田 君子（NGO 相談員担当）、清藤 直子（2022年12月～、会計業務委託）

担当

【連携推進担当】河上 雅夫

【NANCis】藤井 大輔

【FUKU-NET】原田 君子

■ 通常総会：2022年5月21日（土）オンラインでの実施

■ 通常理事会：毎月1回

2022年度理事会開催実績：2022年4月21日、5月18日、6月17日、7月15日、8月18日、9月16日、10月20日、11月18日、12月17日、2023年1月19日、2月23日、3月16日

■ 事務局会議：毎週1回水曜日

2-2. 会員

正会員（全 19 団体）

(特活)ISAPH
アジア開発銀行福岡 NGO フォーラム
(特活)アジア女性センター
(特活)九州海外協力協会
債務と貧困を考えるジュビリー九州
佐賀 NGO ネットワーク
JVC 九州ネットワーク
(特活)じゃっど
認定 NPO 法人地球市民の会
チベットを知る会
NPO 法人トゥマンハティふくおか
ネパール歯科医療協力会(ADCN)
芭蕉繊維研究会
(特活)バングラデシュと手をつなぐ会
PP21 ふくおか自由学校
福岡 Y M C A
フレンズ国際ワークキャンプ九州
(一社)ミドリゼーションプロジェクト
モザンビークのいのちをつなぐ会

個人会員

賛助会員（個人） 13 名
賛助会員（団体） 0
賛助会員（企業） 0
通信会員 22 名

※2023 年 3 月 31 日現在